

フルキャスト スタジアム宮城



所在地: 宮城県仙台市宮城野区宮城野2-11-6
 建築面積: 7,390.37㎡
 延床面積: 17,595.93㎡
 建物高さ: 外野棟/14.34m、メインスタジアム棟/25.07m
 設計: 鹿島建設(株)
 施工: 建築/鹿島建設(株) 東北支店
 電気/(照明)(株) ユアテック
 (スコアボード) 東芝ライテック(株)
 工期: 平成17年11月～平成18年3月

国内最大の両翼とし、フィールドシートも設けられ、1・3塁側共、内野席を増席するなど、野球を“魅せる”スタジアムに改修された「フルキャストスタジアム宮城」。同時にナイター照明の増灯や大型映像表示装置に加え、サイドビジョンも新たに設置されました。

国内最大の両翼、フィールドシートの設置など、より快適なスタジアムに改修し、感動と興奮を提供

フルキャストスタジアム宮城は、旧宮城県営球場を改修し、ボールパークとして生まれ変わった楽天イーグルスの本拠地です。平成16年度および17年度の改修により、両翼を国内最大の333フィート(101.5m)まで伸ばしたのをはじめ、1塁側と3塁側にフィールドシート(張り出し)の設置、ギブス(正面入り口)が2階建てだったのを5階建てに、1塁及び3塁側内野席の増設などが行われ、同時にナイター照明の増灯や大型映像表示装置に加え、サイドビジョンも新たに設置されました。これにより、ゲーム経過や試合展開をこれまで以上に見やすく、より迫力ある観戦を提供できるようにしています。

大型映像装置に加えサイドビジョンを設置。ナイター照明も増灯し、白熱したプロ野球観戦が実現

大型映像表示装置は平成17年3月に設備されたもので、大きさは幅25.5m×10.5m。選手名やインニング得点部及び審判名などのフリー表示部・固定表示部(表示面寸法横8m×縦6m)はマルチカラー8色が採用され、映像表示部はフルカラーLED表示としています。これにより視認性の高い鮮やかな映像表示サービスが可能とし、快適に観戦できるシーンを展開しています。これに加え、平成18年3月には外野席のスコアボード脇からでも映像表示が見られるように、1塁側内野席の屋根上にサイドビジョン(表示盤寸法横19.2m×縦2.4m)が設置されました。この表示システムはフルカラーLED素子の使用による選手情報の表示やインニング間の効果演出及び広告表示を行う表示盤のほか、放送室から容易に操作可能な操作機器により構成されています。操作機器は既設のスコア操作装置とLAN接続することで、スコア操作装置に入力された選手情報の一部を共有化し、広告と連動した選手紹介を行えるようになっており、また、インニング間にはスケジュール化された広告表示と、インニング中にはメッセージなどを容易に表示可能なシステムとしています。

ナイター照明設備は、スタジアム改修に伴って既設6基の照明塔に1基当たり1.5kWメタルハライドランプ投光器(狭角形)が15～18台ずつ計96台増灯されました。これにより平均照度は内野2000lx、外野1400lx、バッテリー間2500lxとプロ野球JIS基準を十分クリアした照度が確保されています。

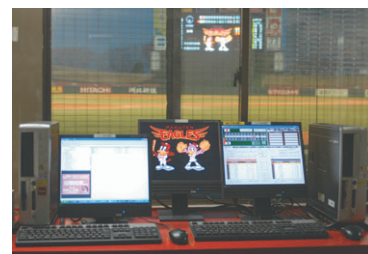
また、ダイナミックなファサードに改修され、同時に広がったコンコースの照明は、400Wメタルハライドランプ投光器を柱の上部に集中設置。上向き照射で天井面を明るくし、柔かな間接光により誘導性を高めると共に、夜にはその明かりで浮き彫りにした美しいファサードが形成されています。



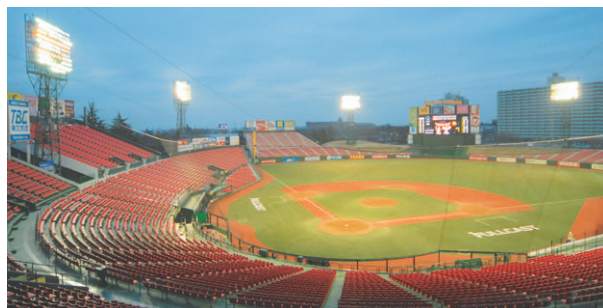
大型映像表示装置・スコアボード: 明るく、見やすい文字・映像表示で、より迫力ある観戦を提供



サイドビジョン: 選手情報表示やインニング間の効果演出及び広告表示を提供



放送室に設けられた操作機器



増灯され、より明るくなったナイター設備



コンコースの照明

■スコアボード表示部仕様

映像表示部	フリー表示部・固定表示部
表示面寸法 横8.0m×縦6.0m	構造 パネル組込型
表示面積 48㎡(394インチ)	素子光度 約5CD
表示素子 フルカラーLED	素子色 マルチカラー8色
表示輝度 5,000cd/㎡以上	視認距離 約200m

■サイドビジョン

表示盤(上下用表示ユニット)
表示盤寸法 横19.2m×縦2.4m
表示面積 46.08㎡(762インチ)
表示素子 フルカラーLED
表示輝度 5,000cd/㎡以上

■主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
ナイター照明(増灯)	投光器	HT-15263X	96	1.5kWメタルハライドランプ
コンコース	投光器	HT-4030X(W)	99	400Wメタルハライドランプ